

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第4号

令和元年

10月30日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新井 篤志

同 学年部長 杉本 敬之

【提案日時】

9月 4日(水)

提案 平本 美峰 先生(山元小)

【会場】

横浜市立丸山台小学校

司会 田澤 哲哉 先生(西が丘小)

記録 浅野 美穂 先生(元石川小)

1、富岡製糸場について

- ・児童は宿泊学習で富岡製糸場を見学済み！

→「日本の技術は外国から100年も遅れている。」

とガイドから聞き、心に響く子どもたち→この経験を生かしたい。

日本、負けちゃう？

大丈夫？

2、単元づくりについて

○激動の時代、人々が大きく変わっていったこと、その背景や理由をつかませたい。

- ・前単元の開国や不平等条約締結について子どもとしっかり押さえる。

→富岡製糸場を見学した際の100年遅れている日本の技術についての知識と繋ぎ、なぜ明治政府が近代化を図ろうとしたか考えられるようにする。

- ・国力差がある事実をよりとらえやすい資料は…黒船と千石船の違いや同年代の国の様子など

→何が遅れていたのかをはっきりさせ、術力や生産力の差について考えられる資料を見せたい。

- ・日本の貿易を支えた横浜からの輸出品。その多くが生糸！！

→富岡製糸場の生糸づくりについて、日本の今までの生糸のつくり方と比べて考える。

→児童が身近に感じられるよう生糸を見たり、同年代の女の子が働きに出ていた事実を伝えたりする。工女は憧れの職業！←そう感じさせた政府の意図とは？

3、単元を見通す学習問題について

- ・外国との力の差を知った明治政府⇔日本はこれからどのように外国に追いついていくのだろう。

→鎖国をしていた時代も政府は外国の様子を知っていた。という前単元の学習内容を押さえる。

→工女のその後の人生を追うことで、明治政府の意図を考えることもできそう…

<学年担当校長 鶴飼先生>

- ・富岡製紙工場での「日本の技術は外国から100年も遅れている」という心に響いた言葉など、見学の経験を生かすとともに、さらに教材や資料にじっくり触れられるようにする。
- ・見学してきたことと、当時の日本の技術についての知識を繋ぎ、なぜ明治政府が近代化を図ろうとしたのかを考えられるようにする。
- ・激動の時代、人々が大きく変わっていったこと、その背景や理由をつかませることで、時代の前後の歴史単元のつながりを感じられるようにする。
- ・工女、明治政府、国力等の言葉にも注目し、意味を考えて授業で使うことが大切。

文責 浅野 美穂 (元石川 小学校)

発 関口 暁之 (永谷 小学校)